

富士見小学校のESD活動

＜活動の概要＞

- ・本校では、ESDを「未来をたくましく生き抜く子どもを育成するための教育活動」と捉え、基礎力・思考力・実践力の育成を目標とした。具体的には、教科・領域の学習指導を柱に、①協働にかかわる学習、②自己実現にかかわる学習、③他者とかかわりながら問題解決にいたる学習を行った。

・活動の実際

① 協働にかかわる学習（3年生、6年生）

富士見校区には、富士見小の児童と校区を支えるためのボランティア団体「おやじの会『つばめ育み隊』」がある。また、自治会でも、公園の清掃や緑化活動などに積極的に取り組み、住みやすい校区を目ざして活動している。

3年生は、校区探検をきっかけに、公園で活動されているかたと出会い、校区への思いを知った。そして、自分たちも一緒に活動してみたいという思いが高まり、9月と11月、公園に花を植える活動に参加させていただいた。

6年生は、おやじの会の皆さんとプール掃除をし、どのかたも楽しそうに活動されている姿を見て、自分たちも誰かの役に立ちたいという思いをもった。そして、校内で全校遊びを計画したり、地域の消火器探しに出かけたりするなど、主体的に活動を広げていった。



② 自己実現にかかわる学習（4年生）

4年生は、世界にさまざまな課題があることに目を向け、SDGsの17の目標について追究していった。その後、SDGsの目標の一つである「住み続けられるまちづくりを」を富士見校区において達成するため、自治会長さんから話を聴き、自分たちができることをしていきたいという思いをもった。

一方で「二分の一成人式」に向けて、10年後の自分と富士見校区について夢を語り合う学習も行った。子どもたちは、幸せな未来を実現するためには、自分の夢に向けて努力したり、校区の人たちと協力したりしていきたいと意欲を高めた。



③ 他者とかかわりながら問題解決にいたる学習（5年生）

富士見校区は、新興住宅地として昭和59年に誕生した校区である。全国から集まってきた人と以前から住んでいた人が一体となって、新しい町をつくり上げてきた。5年生の総合的な学習では、現在は、少子高齢化が進んできている富士見の町ではあるが、先人たちが「みんなが幸せでよきふるさとになってほしい」という願いをもっていたことを知り、自分たちにできることは何かという問題をもって活動を開始した。

この町に住んでいる人にとって不便なこと、困っていることはないかを知るために、高齢者福祉施設の職員のかた、看護師さん、盲導犬ユーザー、点字の先生、車いすサポーターなど、さまざまな立場の人に来て話を聴いたり、体験したりした。たくさんのかたがたと関わる中で、「不便なことがあっても、周りにいる人の力と気持ちで、みんなが幸せに笑顔で過ごせるようになる」ということを実感することができた。

これまでの活動をもとに、みんなが幸せに暮らせる校区にするためにできることを話し合った。一人一人ができることを考え、もっと安心して暮らせるように、地域に主体的に関わっていこうとする意識を高めることができた。

